

【年表】 赤松円心

年号(西暦)	出来事〈円心の年齢(数え年)〉
建治3年(1277)	赤松円心、播磨国佐用荘の豪族・宇野氏一族の赤松家に生まれる
元応元年(1319)	円心、甥の宗峯妙超のため京都紫野に庵(後の大徳寺)を建てる〈円心・43歳〉
元弘元年(1331)	元弘の乱起る。円心三男の則祐、後醍醐天皇の皇子大塔宮護良親王に随い、叡山から吉野で鎌倉幕府勢と戦う〈円心・55歳〉
元弘3年(1333)	円心、倒幕のため苔縄城に挙兵。山陽道を東上し、味方についた足利高氏(のちの尊氏)らと共に京に進攻。後醍醐天皇の建武政権が成立し、円心は播磨国守護に任じられる〈円心・57歳〉
建武元年(1334)	護良親王鎌倉へ配流。円心も播磨国守護職解任〈円心・58歳〉
建武2年(1335)	護良親王、鎌倉で暗殺される。円心は建武政権に離反した足利尊氏に与する〈円心・59歳〉
建武3年(1336)	円心、足利尊氏に光厳上皇から院宣を得るよう進言。九州で再起を図る尊氏の上洛まで、白旗城に籠城し、新田義貞率いる軍勢を足止めする。義貞勢は撤退し、建武政権は崩壊へ。室町幕府成立し、円心、播磨国守護職に補任〈円心・60歳〉
建武4年(1337)	円心、佐用荘苔縄に法雲寺を建立し、高僧雪村友梅を開山に招く〈円心・61歳〉
貞和元年(1345)	幕府、国毎に安国寺と利生塔を建てる。播磨国の利生塔は法雲寺に建立〈円心・69歳〉
観応元年(1350)	円心没す 〈円心・74歳〉。播磨国守護職は長男・範資が継ぐ。足利尊氏・直義兄弟の不和から、観応の擾乱起る
観応2年(1351)	赤松範資没す。播磨国守護職は則祐が継ぐ。

☆ 参考文献 ☆

高坂 好 『赤松円心・満祐』 (株)吉川弘文館 1970年

『上郡町史』第一巻 本文編 I 上郡町 2008年